

1 NO POVERTY

2 ZERO HUNGER

3 GOOD HEALTH AND WELL-BEING

4 QUALITY EDUCATION



5 GENDER EQUALITY

9 INDUSTRY, INNOVATION AND INFRASTRUCTURE

13 CLIMATE ACTION

17 PARTNERSHIPS FOR THE GOALS



SDGsを支援する

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

科学アカデミー のための ガイド

序文と謝辞

InterAcademy Partnership (IAP) は、世界で最もチャレンジングな課題の解決方法を探すために科学の役割をサポートするために協力し合う、科学、医学、工学アカデミーのグローバルネットワークです。パートナーシップの一環であるResearch for IAPは、2016年に「世界的な政策形成に対する科学の貢献の向上：持続可能な発展目標 (SDGs) を達成するための新たなプロジェクトを開始しました。国際ワーキンググループは、ニューヨークのカーネギー・コーポレーションから資金援助を得てプロジェクトを実施しています。Annex Aに、作業部会メンバーとプロジェクト事務局の名簿が含まれています。

このプロジェクトの重要な目的は、科学アカデミーがこのシステムでどのように役割を果たすことができるかに焦点を当て、SDGsの実施を支援する世界的な科学コミュニティの能力を強化することです。プロジェクトの初年度に、ワーキンググループは、世界的な専門家からの洞察と見解を聞き、SDGsをサポートする際の科学・技術・イノベーション (STI) の役割に関する様々なイベントに参加しました。このためメンバーは、SDGsの実現へのSTIからの貢献を具体化するために国連 (UN) が確立した構造、メカニズム、プロセスに精通しています。

同時に、ワーキンググループは、SDGsを支援する上でのアカデミーの実際の、かつ将来的に望む役割についてもっと学びたいと考えています。シニア・アカデミーと若手アカデミーの調査を実施し、SDGsとSDGsをサポートする構造の認識と関与を評価しました。アンケート調査の回答によると、SDGがどのように実施されているかを理解する上で、アカデミーと個々の科学者の間にはかなりのバリエーションがあります。そのため、ワーキンググループはこの短いガイドをまとめ、アカデミーのSDGs支援における優れた実践の例を共有し、アカデミーによるSDGs関連のイニシアチブのデータベースなどの補完的なリソースを開発する予定です。その進捗状況と最終的な最終報告書 (2019年初めに予定されています) は、IAP for Researchのウェブサイトで見ることができます (i)。

厳格なピアレビューは、IAP for Researchによる研究や他のプロダクトにおける特徴であり、またIAP for researchの共同代表によって見守られています。次の査読者に、建設的なコメントをいただいたことを、感謝致します：

- Dr. Bill Colglazier, Co-Chair, 10-Member Group, Technology Facilitation Mechanism
- Professor Roseanne Diab, Executive Secretary, Academy of Science of South Africa (ASSAf)
- Dr. Robert Lepenies, Member of the Global Young Academy (GYA)
- Dr. Shantanu Mukherjee, Chief, Policy and Analysis Branch, Division for Sustainable Development, UN-ECOSOC

ワーキンググループとIAP for Researchを代表し、次の皆様に感謝いたします：貢献されたアカデミー；プロジェクトディレクター Tracey Elliott氏、および事務局；配布パートナーであるプリンストン高等研究所；資金提供者であるニューヨークのカーネギー・コーポレーション。

Robbert Dijkgraaf, Daya Reddy
IAP-Research 共同代表

2017年11月

(i) - <http://interacademies.org/>

Eva Alisic, Li Jinghai
プロジェクト共同代表

日本語翻訳版作成：

狩野光伸 (岡山大学・日本学術会議連携会員・若手アカデミー会員・グローバルヤングアカデミーアラムナイ)
・蟹江憲史 (慶応大学・SDSN Japan・日本学術会議連携会員)



InterAcademy Partnership 2017

目次

1. イントロダクション.....	1
2. 持続可能な開発目標(SDGs)とは何か?	3
3. なぜアカデミーはSDGsを支援する必要があるか?	4
4. どのようにSDGsは実行されているか?.....	5
国際レベルで.....	5
各国レベルで.....	8
5. アカデミーはどのようにSDGsを支援できるか?	11
参考文献 / URLs	16
Annex A: ワーキンググループと事務局.....	19
Annex B: 参加アカデミー	20

1. イントロダクション

科学は、2015年に国連が承認した持続可能な発展目標（SDGs）[1]に含まれている幅広いグローバルな政策目標を支援するために不可欠です。世界各地の多くの科学者が、さまざまな分野でこれらのグローバルな目標の実施にすでに関わっています。しかし、まだまだ多くの人が関わる必要と機会があります。各国で最も優れた科学的専門知識の一部を代表しているシニアおよび若手の科学アカデミーに対する最近の調査[2]の結果によれば、SDGsの認識と理解は比較的低いことを示しています。

この短いガイドは、国際政策決定に関するInterAcademy Partnership (IAP) におけるプロジェクト[3] (2016-2019) の成果です。このプロジェクトは、アカデミーに焦点を当て、SDGへの世界的な科学コミュニティの貢献を中心に構成されています。IAP加盟国のアカデミー、若手アカデミー、グローバルヤングアカデミー（Annex B参照）に3つの柱、動員、能力開発、協働を提供しています。

このガイドの目的は次の三つです：

1. 世界の科学コミュニティとそのリーダー、特に各国アカデミーのメンバーの間でSDGsの意識を高めること
2. SDGsの実行方法を理解すること
3. SDGsをより効果的に支援するように科学者やアカデミーを奨励すること

このガイドは、SDGsをサポートするすべてのネットワーク、機関、およびプログラムの網羅的なリストを意図したものではなく、それよりはアカデミーが内部的に、あるいはアカデミー同士が、あるいは政策立案者を含む他のステークホルダーと対話を持ち、またアカデミーが関与するための「行動要請」として、意図されたものです。



2. 持続可能な開発目標(SDGs)とは何か?

SDGsは、インパクトの高い、重要な課題を含む、十分に明確に表現された、世界的に採択されたフレームワークです。惑星とその人々の将来の幸福のための青写真です。すべての国連加盟国が採択し、2016年1月1日に発効した2030年持続可能な開発アジェンダ[6]の17の持続可能な開発目標 (SDGs) [5]は、15年の有望な枠組みを提供しています。人間、惑星、繁栄、平和、パートナーシップを指向しています。

ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals [7]) の上に構築されている一方、17のSDGsは、人権とすべての包摂をより重視し、持続可能な発展の経済的、社会的、環境的側面のバランスをとるよう努めています。前例のない範囲と重要性で、これらの目標はグローバルゴールとも呼ばれ、普遍性の特徴が際立っています。それらは、異なる国の現実、能力とレベルの開発を考慮し、国の政策と優先事項を尊重しながらも、すべての国に適用されます。これらの目標は貧困層、富裕層、中所得層のすべての国が、惑星を保護しながら平和と人間の福祉を促進する行動を求めています。

SDGsは、持続可能かつ包括的な経済成長と強力な制度を構築する戦略と並行して、貧困の減少を実行しなければならないことを認識しています。教育、健康、ジェンダーの平等、不平等の削減、雇用機会など、さまざまな社会的ニーズに対応しています。そしてまた、気候変動と環境保護に取り組んでいます。

169のターゲット[8]がSDGsの各目標を支えています。これらの目標は、国連統計委員会によって設定された国際的に合意された232の指標[9]によってモニターされています。これらのうち三分の一の指標は、“Tier III”[10]に分類されています。すなわち、測定法と標準は現在開発中であるか今後開発される予定のものです。

SDGsは、国連の歴史の中で最大の合議プログラムに従って形成されました。国連からの指示で、70カ国からの代表団のオープンワーキンググループ[11]が一連の「グローバルな対話」を行い、目標を策定した。これには、11のテーマ別合議、83の国別合議、戸別訪問調査、オンラインアンケートが含まれ、低・中HDI(人間開発指標)国から570万人以上の参加を可能としました。

法的に義務付けられているわけではありませんが、国連加盟国は、17のSDGs達成のための当事者意識と国家の枠組みを確立することが期待されています。各国は、目標の実施における進捗状況のフォローアップとレビューの主な責任を負います。これらの全国レベルの分析は、地域のフォローアップとレビューを行い、その結果、グローバルレベルでのフォローアップとレビューが行われます。

3. なぜアカデミーはSDGsを支援する必要があるか？

アカデミーや広範な科学コミュニティがSDGsに取り組むことに強い根拠があります。すべての国連加盟国はSDGsの遂行に尽力しており、各国の優先事項をグローバルコミットメントと整合させて統合することで、SDGsが各国内で主流化されるよう努めています。これは、国の研究課題と政策優先事項が、もしこれらのグローバルな目標をまだ反映していなければ、それらを反映することを意味します。各国の国家科学システムの重要な部分として、アカデミーには構成員の豊富な専門知識を活用して、このプロセスを促進する役割があります。

地域的な科学技術政策アジェンダは、存在する場合、同様の再編成を受けています。たとえば、欧州連合 (European Union) [12] では、SDGsは世界最大の多国籍研究基金であるHorizon 2020 [13]の参照フレームワークになりつつあり、また、新たな「開発に関する欧州合意」[14]を通じ、パートナー諸国との開発協力を形作るための参照枠組みになっています。同様に、東南アジア諸国連合 (ASEAN) [15]は、SDGsとその「Vision 2025」ロードマップ[16]との間の相補性を探求しています。

SDGsは、必然的に、いずれかの政府内のさまざまな部署/省庁と関係しています。これらの省庁は、目標の日常業務への統合を管理し、

レビューするための、そして、それを達成するための政策とプログラムを考案し実施するためのツールと機関を必要とします。アカデミーは、以下のために専門知識を提供することができます。SDGsを文脈に置き、その重要性、原因および進路を説明するため。モニタリングと評価のフレームワークを考案し、SDGs間のギャップ、相補性、相乗効果、トレードオフを特定するため。複雑なデータや大きなデータを説明するため。オープンな科学を通して知識の共有を促進するため。各国のSTIロードマップや行動計画の策定に役立つため。学際的な共同作業を促進し実践するため。政策立案者にアドバイスし、その説明責任を果たすために、働いているものとそうでないものを独立して評価するため。

SDGsの実現には、すべてのセクターや分野、そしてあらゆる世代にわたる最良の知性、リソース、ビジネスモデル、革新が必要です。アカデミーは、以下のことから国内、地域、およびグローバルシステムに参加することができます。認知された、独立した、正直な専門知識の源泉として。信頼尊敬されるアドバイザーおよび会議主催者として。研究や強力な科学機関への投資の提言者として。若手研究者の能力を発揮できるように支援するメンターやパートナーとして。

4. どのようにSDGsは実行されているか？

(1) 国際レベルで

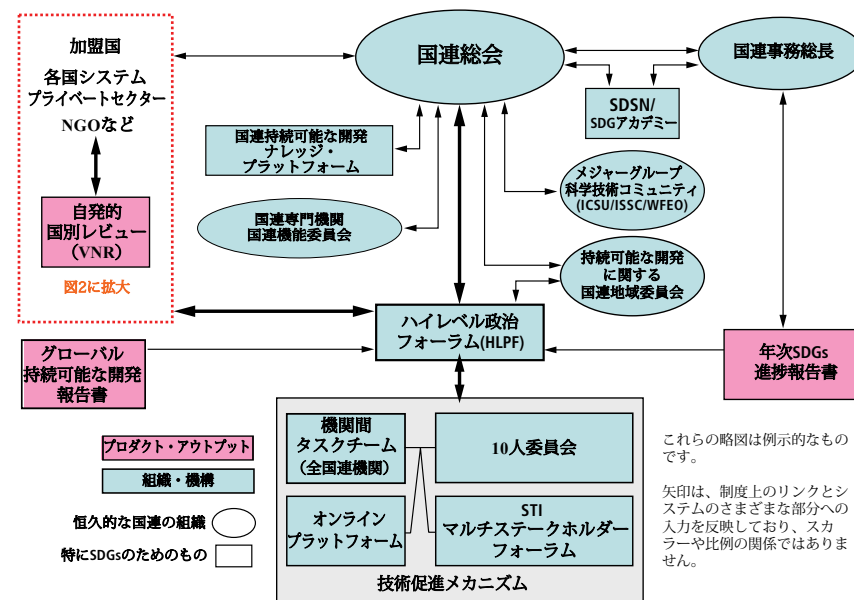
SDGs実施のための主要な国連のインフラストラクチャーは、科学者が関与するための主要な窓口とともに、図1に示されています。

国連総会[17]は、ニューヨークの国連本部で毎年7月に開催されるハイレベル政治フォーラム (HLPF) [18]を通じて実施の進捗状況を更新しています。HLPFは、すべての国連加盟国、専門機関、その他の利害関係者が全面的に参加し、SDGsのフォローアップとレビューの中心的なプラットフォームです。

HLPFは、事務総長による持続可能な発展目標報告書[19]から報告を受けています。この報告書は、国連が国際機関および地域機関からのインプットをもとに作成した、世界的なSDG指標枠組みの最新の入手可能なデータに基づく、世界的および地域的進展の評価です。

このフォーラムを支援するのが、複数の利害関係者の共同作業に基づいて、SDGsのためのSTIの効果的な使用を強化することを目的とした技術促進メカニズム[20] (TFM) です。加盟国、市民社会、民間セクター、科学界、国連機関、その他の利害関係者の間で協力が行われます。

図1: 国連SDGsプロセスにおける科学アドバイスのマッピング：国連レベル（簡略図）



TFMは、技術のニーズとギャップを特定すること、STI促進のためのベストプラクティスを共有すること、そして新しいネットワークとパートナーシップを刺激するのに役立ちます。TFMは、i) SDGのためのSTIに関するUNの機関間タスクチーム (IATT) からなり、ii) 以下に説明するSDGsのためのSTIの毎年開催されるマルチステークホルダーの協働的なフォーラムで構成され、また、iii) 既存のSTIイニシアチブ、メカニズム、およびプログラムに関する情報を得るための窓口としてのオンラインプラットフォームで構成されます。

TFMは、市民社会、民間セクター、科学界を代表する「10人委員会(10-member group)」(国連事務総長から2年任期で任命された)によってサポートされています。その役割は、IATTにアイデア、助言およびガイダンスを提供すること、STIフォーラムを支援すること、そしてアジェンダ2030の推進におけるSTIシステムの役割を促進することです。この委員会は次の3つのハイレベルの優先事項を決めました。

(i) STI能力を強化し、各国の個人、組織、政治レベルで人的能力を構築する行動と政策、(ii) 関連する政策、行動、パートナーリング、技術、研究開発成果に関する知識、情報、経験、助言を共有する複数のプラットフォーム、(iii) 国内および国際STI行動計画を策定するための複数の仕組み、です。

10人委員会は、STIがどのように実践され、評価され、報われているか、斬新な変革[21]を求めました。競争から、より大きな協働への変革です。互いに孤立した専門分野のコミュニティから、新しいタイプの知識を提供する統合されたコミュニティへの変革、そして、社会のために働くという概念から、社会的とともに働くことへ、オープンかつ包括的に転換するよう要請しました。つまり、STIの実践をグローバルな公共善にもっと集中させるように変化させるということです。

TFMは、これらの変革上の問題を議論するために、毎年の「国連STIマルチステークホルダー・フォーラム」[22]を組織する責任があり、また、個々の、制度的、国内的、国際的なレベルでどのように実現されるのかを議論する責任があります。これらのフォーラムは誰でも参加できます。IAPは2016年と2017年に代表を派遣しました。2017年のSTIフォーラム[23]の共同議長のまとめは次のようでした：

科学アカデミーおよび関連する組織化された科学グループは、各国のSTI政策プロセスおよびニーズとギャップの特定に積極的な役割を果たすよう奨励されるべきである。[パラグラフ69]

グローバル持続可能な開発報告書 (GSDR) [25]は、毎年報告されてきた後(2014-2016 [24])、4年ごとに発行されるようになります。次のものは2019 HLPFのために用意されています。15人の科学者からなるグループ[26]は、その作成を任されており、次の4つの主要分野でグローバルな科学コミュニティからのインプット[27]を公表しています：(1) SDGsとそのターゲット間の相互作用、(2) 持続可能な開発への転換の道筋、(3) SDGsを超えた見解 (SDGsで明示的に表現されていないが、研究によって特定される主要な問題)、(4) 持続可能な開発のための科学の役割、です。

SDGsのために特別に設定された組織に加えて、多数の(恒久的な)国連組織が存在し、「プログラムと資金programmes and funds」i、「専門機関 specialised agencies」ii、「機能委員会 functional commissions」iiiと呼ばれています。これらもSDGsに貢献し、アカデミーや広範なサイエンス・コミュニティにとっての豊富な、あるいは複雑な、関与のスコープを提供します。複雑というのは、それらが数多くあり、科学的な助言システムやプロセスが非常に異なるためです。例えば、

国連環境計画 (UNEP) にはそれ自体のチーフサイエンティストがおり、国連災害リスク軽減局 (UNISDR) にもそれ自体の科学技術諮問グループ (STAG) があります。確立されたグローバルな科学評価パネルも存在します。最も有名な例は、気候変動に関する政府間パネル (IPCC) と生物多様性と生態系サービス (IPBES) に関する政府間科学政策プラットフォームでしょう。なお、これらは包括的な説明を期すために含めましたが、このガイドの眼目ではありません。

開発科学技術委員会 (CSTD) [28]は特に言及する価値があるでしょう。それは国連の経済社会理事会 (ECOSOC) の補助機関であり、ECOSOCと関連する科学技術問題に関する高水準のアドバイスを国連総会に提供します。CSTDは国連内の科学技術に関する勧告とガイドラインを作成するためのプラットフォームを提供しており、この任務を支援するために世界中の科学的専門知識を求めています。

(i) 国連「プログラムと資金」の例としては、国連環境計画 (UNEP)、国連開発計画 (UNDP)、国連貿易開発会議 (UNCTAD) があります。

(ii) 国連の「専門機関」には、国連教育科学文化機関 (UNESCO)、世界銀行 (WB)、食糧農業機関 (FAO)、世界気象機関 (WMO) および世界保健機関 (WHO) があります。

(iii) 国連「機能委員会」の例には、開発科学技術委員会 (CSTD)、持続可能な開発委員会 (CSD)、国連森林フォーラム があります。

科学技術共同体におかれたメジャーグループ[29]は、そのパートナーである国際科学会議（ICSU）、国際社会科学協議会（ISSC）、世界工学団体連盟（WFEO）を通じ、議論されている特定のトピックに応じて、持続可能な発展に関連する政府間プロセスに参加し、広く科学者の関与をもたらす主要なチャネルの1つです。

国連持続可能な発展ソリューションネットワーク（SDSN）[30]は、共同学習を促進し、相互に関連する経済的、社会的、環境的な地球規模の課題への統合されたアプローチを促進することを目指しています。SDSNは、国連機関、多国間金融機関、民間セクター、市民社会と緊密に連携しています。オーストラリアのオフィスは、最近、大学向けのSDGsのガイドを作成しました[31]。SDSNはSDGアカデミーをホストしています[32]。このSDGアカデミーは、SDGsの無料、高品質、大量のオンライン教育を提供する仮想プラットフォームであり、また、年次SDGsインデックスとダッシュボードレポート[33]など、データのモニタリングと説明責任の役割を果たしています。

もう1つのグローバルなリソースは、フューチャーアース[34]のSDGsに関するナレッジアクションネットワーク[35]です。コミュニケーションを強化し、SDGsの意識を高め、それを提供する際の科学的課題を促進し、ガバナンスのあらゆるレベルで科学政策のインターフェースを強化するように設計されています。

持続可能な発展に関する国連地域委員会[36]は、関係者の学習と協力を通じてSDGsを推進し、HPLFへの地域からのインプットを提供します。地域フォーラム

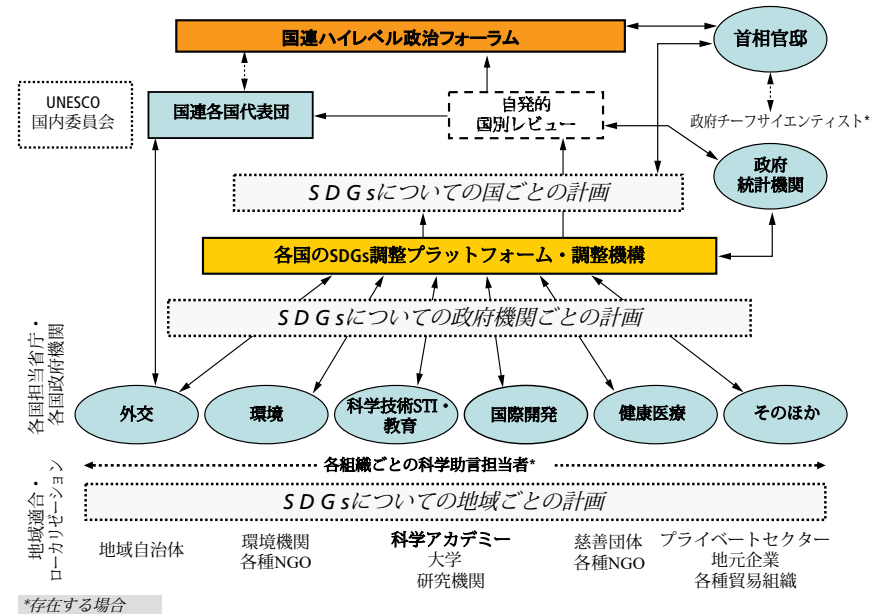
は、SDGs実施における政策ソリューション、優れた実践および課題を共有するための場を提供することで、主要な地域および小地域の傾向を特定するのに役立ちます。これらは、国際的および地域的組織、市民社会、学界、民間部門を含むすべての関係者の参加に開放されています。各地域のアカデミーネットワークであるNASAC（アフリカ）、IANAS（アメリカ地域）、AASSA（アジア）、EASAC（欧州）は、SDGsを支援するプラットフォームとして、国連地域委員会とそのフォーラムの関係を強化することができます。

(2) 各国レベルで

図2は、SDGsが各国レベルでどのように実施される可能性があるかを示すと同時に、科学者が関与する主な窓口のいくつかを示している。

多くの国で、SDGsをリードする省庁あるいは部門は、国連交渉と国別報告を行う外務省または同等の組織でしょう。しかし、幅広い範囲の他の省庁も目標の実施を担当します。これらのプロセスが国、部門、地方（例：セクター、都市、州）レベルで調整される程度は、国によって異なると思われる。

図2: 国連SDGプロセスにおける科学的助言のマッピング：国レベル（模式的）



矢印は、制度上のリンクとシステムのさまざまな部分への入力を反映します。スカラーや比例ではありません。

すべての国連加盟国に共通のプロセスの1つは、国が自国の目標を実施する上での進捗状況をHPLFに自発的に通知することを目的とする「自発的国別レビュー」（VNR）です。実施の最初の3年間（2016-2019）には、110カ国以上がVNRをHPLFに複数回提出する予定です。VNRの目的は、成功、課題、学んだ教訓などの経験の共有を促進すること、政府の政策と制度を強化すること、そして、複数のステークホルダーの支持とパートナーシップを動員することです。

国連事務局は、これらのレビューを次の視点から標準化する努力を行っています。

- ・ 国の優先順位と目標が含まれているか。
- ・ 次の3項目について2～3の実例が含まれているか：(i) ベストプラクティスの共有、(ii) 遭遇する課題、(iii) サポートが必要な領域。
- ・ レビューの方法論が含まれているか、すなわち、誰が関与し、誰と相談したかという情報が含まれているか。
- ・ SDGsの各国フレームワークへの組み込みが含まれているか。
- ・ それらがどのように実装されているかの説明が含まれているか。

2016年のレビューの第1ラウンドでの経験からは、VNRが以下の促進を助けられることを示唆しました。(i) 政府内のリーダーシップ開発と技術協力。(ii) 制度的キャパシティ。(iii) データキャパシティ。(iv) 各国での包摂と協働。またVNRは、既存の能力とギャップの全国的なマッピング作業を促進することも示唆されました。2016レビュー[38]の総合と2017レビュー[39]からの主要メッセージの集合はオンラインで見ることができます。

VNRは、各国の科学アカデミーがそれぞれの政府と、制度化されていてもプロセスの独立した一員として連携できる可能性のあるプラットフォームを提供します。これらのVNRが既に実施されている国、進行中の国、および将来予定されている国のリストは、いくつかの国ですすでに行われたレビューの結果とともに、オンラインで見ることができます[40]。

5. アカデミーはどのようにSDGsを支援できるか?

各国の科学アカデミーは、(i)国内、地域および世界レベルでの独立した科学アドバイスの提供者および/ またはルートとなることが望まれ、また、(ii)SDGsの実施を支援するための能力開発や各国の科学システムの変更を実行していくことが望まれます。

VNR（自発的国別レビュー）は、当該国で存在する場合は有用な出発点です。VNRは、各国での実施がうまくいっているところと、知識、データ、特定の目標、目標や指標の間にギャップがあるところについての政府の見解を提供するからです。各国アカデミーはVNRを使用して自らの活動すべき内容を考案し、政府の視点に建設的に関わることができます。たとえば、科学アカデミーは、特定の分野での知識を得ることに注力することもできるでしょうし、組織的あるいは制度的なつながりが不足する部分を橋渡しすることもできます。

SDGsの実施を支えるために、STIのための国家的、地域的およびグローバルな行動計画またはロードマップを開発する必要があります。これらはロードマップは、スキル、専門知識、研究ニーズ、SDGの財務計画と投資のギャップと機会を特定するのに役立ちます。しかし、そのようなマッピングに言及するオンライン文書は数多くありながら、

それらの実施は十分ではありません。各国アカデミーは、誠実な仲介者や信頼できる会議主体としてだけでなく、各国の科学システムの重要な部分として、またアカデミーが地域や世界で組織されることによって、このプロセスを促進するのに役立つことができます。

IAPのメンバーアカデミー、各国の若手アカデミー、グローバル・ヤング・アカデミーの2016/17調査で、アカデミーはSDGsをサポートできる次の方法を見出しました：

- **SDGsの重要性を伝える**：公開講演会、ディスカッション、アウトリーチプログラムを通じ、すべての科学技術活動の重要性を促進し、加盟国、政府、議会、市民社会、公共、学界、民間セクターに関心を持つ（感度を高める）ことによって。
- **政府に助言を行う**：直接または他の適切な情報源を通じてSDGsとその目標を地方、各国、地域ごとに解釈し、優先順位付け、実施するのを助けることによって。
- **専門家を紹介する**：公的および民間の諮問委員会や他の委員会に貢献するために。

- 政府が一貫した科学技術政策を実行するように促す：SDGsを支援する基礎及び応用科学を対象として。
- 政策立案者とアカデミア/研究コミュニティとの対話者としての役割を果たす —各国アカデミーの役割として、政策立案者にエビデンスを伝えるだけでなく、科学者へ政策や研究ニーズを伝えることも重要です。
- 異なる多様なステークホルダーを集める：対話を促進する、ワークショップ、ミーティング、フォーラム、シンポジウムを通じて。
- エビデンスに基づいた明確な提言を提供する：統合された学際的な視点から、タイムリーなポジションステートメント、レビュー、ポリシー・ブリーフ、サマリー、コンサルテーション・レスポンス、専門家コンセンサス・レポートを準備することを通じて。
- シニアと若手のアカデミーメンバーが協働する：SDGsを支援するためにお互いの強みを生かすように。
- 今よりもさらに、異なる科学的視点を統合し、異なる専門分野間をつなげる：科学的、社会的、文化的、政治的なコンテキストに向き合うために。
- SDGs間のトレードオフと相補性を探り[41]、そして将来に向けて課題を見つけ困難を予測するためにホライズンスキヤニングを行う。
- SDGsの進展をモニタリングし評価する；インディケータの開発を含む。特に不十分な目標について [42]。
- 共通の課題を特定し、ベストプラクティスを共有し、革新的なアプローチを推進する：このために、地域および世界のアカデミーネットワークを活用する。

各国のシニアアカデミーや若手アカデミーは、ここで紹介されている多くのリンクやリソースを探して、SDGsをサポートする独自の強みを展開する方法を検討してください。詳細は、projects@iapartnership.orgまでお問い合わせください。

まとめ：アカデミーがSDGsを支援するためのルートは次のとおりです

- 毎年開催される国連STIマルチステークホルダーフォーラムに参加する。
- 持続可能な発展報告書（GSDR）への入力依頼に対応する。
- 地域のアカデミーネットワークを通じて国連地域委員会に参加する。
- 自発的国別レビュー（VNR）プロセスを各国で支援する。
- 各国政府のSTIロードマップ/行動計画の策定に貢献する。
- 様々な国連組織における科学に基づいた作業に専門知識を提供する。
- 国連の科学技術のためのメジャーグループを通じた協議に貢献する。
- 国際的な研究、モニタリングおよび評価プログラムに参加する。
- SDGsを各アカデミー内あるいはアカデミー間のプログラムやイニシアティブに反映する。

各国 アカデミーの SDGs 取り組み例

アカデミーの年次業績計画、年次報告書および戦略計画にSDGsを含めました

例：南アフリカ科学アカデミー (ASSAf)

SDGsに関する諮問委員会を設置しました

例：日本学術会議 (SCJ)

SDGsに焦点を当てたプログラムを通して大学を奨励しました

例：スイス科学アカデミー (SCNAT)

賞や研究資金をSDGsに協調させました

例：世界科学アカデミー (TWAS)

SDGsに関連付けたワーキンググループを活用しました

例：グローバルヤングアカデミー (GYA)

持続可能な発展の研究においてフラグシップ研究を推進し、SDGsのための政府STI計画を策定しました

例：マレーシア科学アカデミー (ASM)

SDG関連のテーマで年次メンバー会議を開催しました

例：タイ科学アカデミー (TAST)

国の持続可能性に関する報告を委託しました

例：中国科学アカデミー (CAS)

SDGsに関する内容を扱った視聴者参加型のライブテレビ番組を主催しました

例：ザンビア科学アカデミー (ZaAS)

参考文献 / URLs

- 1 – 国連持続可能な開発ナレッジ・プラットフォーム
<https://sustainabledevelopment.un.org/sdgs>
- 2 – プロジェクト調査 <http://interacademycouncil.com/23942/23943/29494/29844.aspx>;
2018年1月以降 <http://interacademies.org>
- 3 – IAP本プロジェクト
<http://www.interacademycouncil.net/23942/23943/29494.aspx>;
2018年1月以降 <http://interacademies.org>
- 4 – 国連加盟国 <http://www.un.org/en/member-states/>
- 5 – 国連SDGs <http://www.un.org/sustainabledevelopment/sustainable-development-goals/>
- 6 – 我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ、国連
<https://sustainabledevelopment.un.org/post2015/transformingourworld>
- 7 – 国連ミレニアム開発目標（MDGs） <http://www.un.org/millenniumgoals/>
- 8 – 国連持続可能な開発目標（SDGs） <https://sustainabledevelopment.un.org/topics/sustainabledevelopmentgoals>
- 9 – SDG指標リスト - <https://unstats.un.org/sdgs/indicators/indicators-list/>
- 10 – グローバルSDG指標の階層分類。 国連. 2017年4月.
<https://unstats.un.org/sdgs/files/Tier%20Classification%20of%20SDG%20Indicators%20April%202017%20web.pdf>
- 11 – 持続可能な開発目標に関するオープンワーキンググループ、国連
<https://sustainabledevelopment.un.org/owg.html>
- 12 – EUの持続可能な発展目標（SDGs）実施、EU
http://ec.europa.eu/environment/sustainable-development/SDGs/implementation/index_en.htm
- 13 – ホライゾン2020とは何か?、EU <https://ec.europa.eu/programmes/horizon2020/en/what-horizon-2020>
- 14 – 開発に関する欧州合意、EU https://ec.europa.eu/europeaid/policies/european-development-policy/european-consensus-development_en
- 15 – ASEANについて。 ASEAN. <http://asean.org/asean/about-asean/>
- 16 – ASEANはSDGsを支援するためにビジョン2025の扉をたたき、ASEAN
<http://asean.org/asean-taps-on-vision-2025-to-support-sdgs-2/>
- 17 – 国連総会、国連
<http://www.un.org/en/ga/>
- 18 – ハイレベル政治フォーラム 2017、国連 <https://sustainabledevelopment.un.org/hlpf>
- 19 – SDGs年次報告書 2017、UNDESA. <https://unstats.un.org/sdgs>
- 20 – 技術促進メカニズム（TFM）、国連 <https://sustainabledevelopment.un.org/tfm>
- 21 – 2016 STIフォーラムに向けたTFM 10人委員会共同代表ハイデ・ハックマンからの書簡、国連 <https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/21240Hackmann%20STI%20Forum%20June%202016.pdf>
- 22 – 国連STIマルチステークホルダーフォーラム、国連
<https://sustainabledevelopment.un.org/TFM/STIForum2017>
- 23 – SDGsのためのSTIマルチステークホルダーフォーラム、事務局長からの覚書。 SDGsのためのハイレベル政治フォーラム、国連
http://www.un.org/ga/search/view_doc.asp?symbol=E/HLPF/2017/4&Lang=E
- 24 – グローバル持続可能な開発 報告書 2016、国連
<https://sustainabledevelopment.un.org/index.php?page=view&type=400&nr=2328&menu=1515>
- 25 – グローバル持続可能な開発（GDSR） 報告書 2019、国連：次でアクセス：
<https://sustainabledevelopment.un.org/globalsdreport/2019>.
- 26 – 2019グローバルレビューセットに先だて、専門家、著名な科学者が持続可能な開発に関するレポートを作成準備、国連プレスリリース
<https://www.un.org/press/en/2017/envdev1770.doc.htm>
- 27 – GDSR 2019 公開の貢献依頼 <https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScSjDMLFP44iwTf58-aDCoKnQrNKTyprimlZa2dx7cnzpFEOw/viewform>
- 28 – 委任と制度的背景、国連貿易開発会議（UNCTAD）
<http://unctad.org/en/Pages/CSTD/CSTD-Mandate.aspx>
- 29 – ステークホルダーの関与、国連 <https://sustainabledevelopment.un.org/mgos>
- 30 – SDSN <http://unsdsn.org/>
- 31 – 大学でSDGsに取り組む http://ap-unsdsn.org/wp-content/uploads/2017/08/University-SDG-Guide_web.pdf
日本語版：https://www.okayama-u.ac.jp/upload_files/sdgs/University-SDG-Guide_web_JP.pdf

- 32 – SDGアカデミー、SDSN
<http://unsdsn.org/what-we-do/education-initiatives/>
- 33 – SDG指標とダッシュボード報告書 2017、SDSN
<http://unsdsn.org/resources/publications/sdg-index-and-dashboards-report-2017/>
- 34 – フューチャーアース <http://www.futureearth.org/>
- 35 – SDGsのためのフューチャーアース知と実践のためのネットワーク、フューチャーアース <http://futureearth.org/future-earth-sustainable-development-goals>
- 36 – 持続可能な開発のための地域フォーラム、国連地域委員会 ニューヨークオフィス <http://www.regionalcommissions.org/regional-forums-on-sustainable-development/>
- 37 – 自発的国別レビュー（VNR） <https://sustainabledevelopment.un.org/vnrs/>
- 38 – 2016 自発的国別レビューの作成、国連 https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/127761701030E_2016_VNR_Synthesis_Report_ver3.pdf
- 39 – 2017自発的国別レビューの主なメッセージ、国連 https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/17035Compilation_of_Main_Messages_from_2017_VNRs.pdf
- 40 – ハイレベル政治フォーラムへの提供意見、国連 <https://sustainabledevelopment.un.org/inputs/>
- 41 – SDGs相互作用へのガイド：科学から実施へ、ICSU
<https://www.icsu.org/cms/2017/05/SDGs-Guide-to-In-teractions.pdf>
- 42 – SDGsターゲットのレビュー：科学の視点から、ICSU・ISSC
<https://www.icsu.org/cms/2017/05/SDG-Report.pdf>

Annex A

グローバルな政策立案への科学的助言の向上：持続可能な発展の世界的目標を達成するための戦略ワーキンググループ

共同代表

Dr. Eva Alisic, Past Co-chair, Global Young Academy; Senior Research Fellow, Monash University Accident Research Centre, Monash University, Australia

Professor Li Jinghai, Vice President, Chinese Academy of Sciences, China

メンバー

Professor Michael Barber, Australian Academy of Science, Australia

Professor Rajae El Aouad, Immunology and Public Health, Hassan II Academy of Science and Technology, Morocco

Professor Peter Fritz, Helmholtz Centre for Environmental Research UFZ, Germany

Professor Sandy Harrison, Centre for Past Climate Change, Geography and Environmental Science, University of Reading, United Kingdom

蟹江 憲史 教授, Graduate School of Media and Governance, Keio University, Japan

Professor Keto Elitabu Mshigeni, Hubert Kairuki Memorial University, Tanzania

Professor Muhammad Saidam, Applied Science, Royal Scientific Society, Jordan

Professor Francisco José Sánchez-Sesma, Institute of Engineering and Graduate Earth Sciences Program, National Autonomous University of Mexico (UNAM), Mexico

Professor Robert Scholes, Global Change and Sustainability Research Institute (GCRSI), University of the Witwatersrand, South Africa

事務局

Thomas Arrison, Executive Director, InterAcademy Partnership for Research (to November 2017)

Tracey Elliott, Project Director, InterAcademy Partnership for Research

Arlen Hastings, Director of External Projects, Institute for Advanced Study

Teresa Stoepler, Executive Director, InterAcademy Partnership for Research (from November 2017)

Nina Ward, Research Associate, InterAcademy Partnership for Research

(i) 各国シニアアカデミー

InterAcademy Partnership (IAP) は、アフリカ (NASAC) [ii]、アメリカ大陸 (IANAS) [iii]、アジア (AASSA) [iv]、ヨーロッパ (EASAC) [v]のネットワークとともに、130以上の国家と地域に存在する業績主義に基づく科学・医学・工学のアカデミーのグローバルネットワークです。これらのアカデミーは、世界で最も挑戦的な問題に取り組むための解決方法を探すにあたり、科学の役割をサポートするために働いています。これらのアカデミーは、健全な政策を進めるために、世界の科学、医療、エンジニアリングリーダーの専門知識を活用することによってこれを行うよう努め、科学教育の卓越性を促進し、公衆衛生を改善し、そして、他の重要な開発目標を達成します。

アカデミーとその地域ネットワークは、グローバルなレベルでの政策アドバイスとサービスにおいて、より積極的で学際的な役割を果たしたいと考えており、自分の仕事をよりよく統合し合理化するよう努力しています。

(ii) グローバルヤングアカデミーと各国若手アカデミー

各国での若手アカデミー[vi]の動きはますます高まっています。現在、世界33カ国で設立され、その他の国でも10のこれに類する計画があります。加えて、グローバルヤングアカデミー (GYA) [vii]は、2017年の時点で、70カ国の代表的な若手科学者（独立した学術キャリアを始めたころ）200人のメンバーと、134人の同窓生から構成されています。メンバーは5年任期で、科学の卓越性とGYAの役割へのコミットメントに基づいて選ばれています。GYAと各国若手アカデミーの活気は、より良い世界を創造するための科学の役割に情熱を注いでいるメンバーのエネルギーからもたらされます。

URLs

- i - <http://www.interacademies.org/>
- ii - <http://nasaonline.org/>
- iii - <http://www.ianas.org/>
- iv - <http://aassa.asia/>
- v - <http://www.easac.eu/>
- vi - <https://globalyoungacademy.net/national-young-academies/>
- vii - <https://globalyoungacademy.net/>

